



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.81

毎月1日号に掲載

映させるといったスケジュールリングがある」と要望した。財政当局は当初「現状の日程がベスト」との姿勢を崩さなかったが、民間企業と比較してあまりに遅い決算認定や他市の前倒し状況、何より最大党派の要望というプレッシャーにより役所内を調整して前倒しが実現した。これは個人の手柄ではなく党派の成果である。

市議会「水曜会」の力

地方議会における「党派」の持つ力をご存知だろうか。国政における党派と同様に数は力と言える。現在39名の市議会議員の党派構成は14人の最大党派・水曜会、以下7人の公明党、4人の誠友会・市民連合・共産党、3人の新政クラブ、会派に所属しない無所属議員が3人となっている。先の臨時議会では私も所属する水曜会から早川佳行新議長を輩出し、議会内の主要ポストの多くを水曜会の議員が占めた。

会派の力の例として、今年から一般会計決算特別委員会が従来の11〜12月から9〜10月に前倒しされることになった。何十年も続けてきた議事日程

が変更された転機は、私が平成28年の決算委員会にて「枝廣市長がキャッチフレーズに挙げている『スピード感のある行政』の具体例として9月に決算委員会を開催して決算を確定し、新年度の予算編成に十分反

他にも特別会計において駐車場・商業施設・食肉センター・集落排水会計において複式簿記導入の検討を要望している。減価償却の概念を導入することにより経営状況が明確化されるだろう。議員一人一人の力は小さくとも、会派を組んで数で訴えることにより現状がベストと言っていた行政も動かざるをえなかった。逆にいくら正論でも無所属議員の提案はなかなか実現しない。私も無所属だった時期に様々提案したが「研究します」が関の山であり、現在の水曜会の力を痛感している。

最後に会派内の人事において4期目の私は副会長に選任された。榊原会長・今岡幹事長を補佐し、数におおごることなく、より良い政策提案と発信力のある会派運営にチャレンジしたい。